

2012年5月15日

岐阜県知事 古田 肇 様

長良川市民学習会
代表 粕谷志郎

清流国体を機として「岐阜県の宝・長良川」の清流回復に向けた 要請書

日頃、県民の生命と郷土を守るために、誠心誠意ご努力されていることに敬意を表します。

昨年度は長良川河口堰をめぐって大きな動きがありました。事業者は、4月から河口堰の「更なる弾力的運用」を開始するとともにフォローアップ委員会にモニタリング部会を開設しました。愛知県は、6月にプロジェクトチームを立ち上げ河口堰の検証を開始。今年1月、その検証報告書を受け知事は国に対し「合同会議」の設置を要請し、3月には岐阜県や三重県にもこの合同会議に参加することを求める考えを明らかにしました。

河口堰建設・堰閉鎖による清流長良川の環境の甚大な悪化は、県民・国民の心を痛め「開門」の声は高まっています。事業者や愛知県の動きはこの声を背景に起きたものです。長良川は、岐阜県民の宝であり誇りです。私たちは、かつてあった汽水域をとりもどす「開門」こそが長良川の抜本的な環境改善につながることを考えます。

他方、徳山ダムの水を長良川に流すという木曾川水系連絡導水路事業は、宙に浮いたまま、なお少なくない予算が毎年執行され続けています。異常渇水時には、徳山ダムの選択取水の機能は大きく失われ、冷たい、貧酸素の水が、長良川中流（古津）に放流されることとなります。長良川の生き物、とりわけ底生生物にとっては、まさに「死の水」となってしまいます。岐阜市の観光の目玉である鶺鴒にも大きなダメージを与えるおそれがあります。今、国の「再検証」の対象となっているこの木曾川水系連絡導水路事業は、一刻も早く中止されるべきと考えます。

河口堰の運用・開門・検証をめぐって様々な議論がされ、県民は強い関心と期待を持っています。国体が開催される今年、全国に誇れる清流長良川の復活策として「汽水域回復をも展望する開門調査」に一步踏み出してください。長良川中流域の生き物に壊滅的打撃を与える懸念の大きい導水路事業には、岐阜県としてはっきりとNOと意思表示して下さい。

「清流」を冠した国体開催県知事にふさわしい貴職の判断を期待し、以下の要請を行います。

記

I 長良川河口堰の開門調査実現に向けて

1. 愛知県知事の「合同会議」設置提案に応え、その実現を関係者に働きかけるとともに岐阜県が積極的に参加する意思を表明すること。
2. 清流国体を機にした長良川河口堰「開門調査」を目指した庁内準備を行うこと。
3. 速やかに平成24年度長良川河口堰調査検討会の開催を議長に要請し、愛知県長良川河口堰検証委員会報告書ならびに同専門委員会報告書の作成者の出席要請と説明・意見交換の場の設置を提案すること。

II 木曾川水系連絡導水路事業の中止に向けて

1. 「関係地方公共団体による検討の場」において、中止の意思表示をすること
2. 上記の前提として、魚類生態系等の専門家による木曾川水系連絡導水路の長良川への影響についてのしっかりとした分析・評価の場を設置すること。

以上。